

令和 5 年度

群馬県障害者芸術文化活動支援センター 報告書

こ・い・あ・ん

もっと自分らしく。もっと自由に、豊かに。

p2. 「群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・い・あ・ん」とは？

p4. 相談支援 / **p6.** 人材育成

p11. 後援事業ほか / **p12.** 芸術文化活動に参加する機会の確保

p16. 情報収集と発信 / **p18.** ネットワークの構築

p20. 令和5年度の活動状況 / **p21.** 歩みははじめました



ごあいさつ

文化は、人が自らの可能性を求めようとする創造的な営みであり、人々に楽しさ、感動、安らぎと生きる喜びをもたらします。また、人々の心のつながりを育み、多様な価値観が共有される社会で強い絆となり得るものです（「群馬県文化基本条例」前文より）。

一方で、障害のある人の文化芸術活動においては、活動の際に生じる制限や障壁等により、十分な情報や支援が届かない、または本人の意思が尊重されない等の様々な課題も存在しています。

このような課題の解決に向けて、令和5年4月、新たに県内の障害者文化芸術活動支援の拠点として「群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん」を開設しました。

県としては、「こ・ふぁん」の活動を通じ、障害のある人の文化芸術活動の普及及び充実を図ることにより、県民の障害及び障害のある人への理解を深め、障害のある人の自立と社会参加を促進していきたいと考えています。

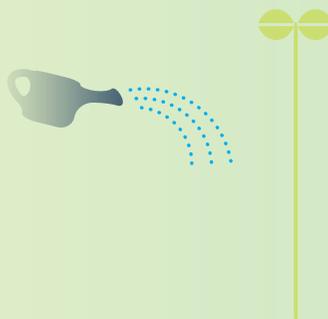
令和2年12月に策定した「新・群馬県総合計画（ビジョン）」においては、年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会の実現を目指しています。

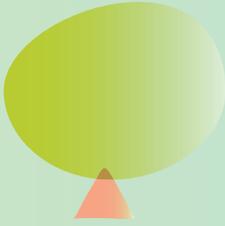
「こ・ふぁん」の活動が、その目標達成の一助となり、そして、福祉に留まらない広がりのある取組となるよう、県としても関係の皆様との連携をより一層深め、事業の充実に努めて参ります。

結びに、令和5年度の事業運営を引き受けていただいた「NPO法人工房あかね」、その協力団体である「NPO法人あめんぼ」と「一般社団法人あったらいいなをカタチに」の皆様をはじめ、御尽力を賜りました多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

群馬県健康福祉部 障害政策課長

齊藤 猛





はじめに

「何故、障害者に絵なんですか？」と「工房あかね」でアートの支援活動を始めたころ、福祉施設の職員からよく言われたのが20年ほど前になります。各施設に出向き、アート活動のサポートを始めました。今の支援センターの活動内容から言うと「発掘」でしょうか。

ひとつの施設にひとり面白絵を描く人がいて「描かせておけばおとなしいから」と、食堂の隅で黙々と描いている利用者さんをよく目にしました。表現というものはそんな位置づけでしかありませんでした。

このような状況でもまず作品を觀てもらおうと、施設から作品を借りて展示会を重ねました。作品が展示されて評価されることで、利用者本人への影響はもちろん、特に施設の職員にとって彼らへの見方が変わっていったことの意味は大きかったと思います。

心を同じくする施設や団体、個人との交流は少しずつ増え、平成30年には「ぐんまアートサポートネットワーク」を発足して横のつながりを強化、福祉や芸術関係だけでなくさまざまな社会形態と結びつき、巻き込んでの活動が広がっていきました。

そんな中、数年前に支援センターの全国的な活動と展開が始まったことを聞いた時は複雑な思いでした。変わるのだろうか？と。

やがて群馬県にも支援センター設立のムーブメントが起こり、事業運営の話が持ち上がりました。その時改めてこれまでの活動を振り返り、「NPO法人工房あかね」単独ではなく、ともに歩んできた仲間たちのそれぞれの良さや得意とすることを生かした支援活動を続けていきたいという思いから、「NPO法人あめんぼ（桐生市）」「一般社団法人あったらいいなをカタチに（前橋市）」の三者共同で事業を受託するというかたちを取り、スタートしました。

それから1年、セミナーでも施設の職員向けにアートへの取り組みかたを取り上げてきました。参加した職員から施設にアート支援の有効さが伝わったでしょうか？ これからの課題だと思っています。

長い時間をかけて向き合うことによる、一人一人の細やかな変化は、データではあらわすことはできません。しかし、数字ではなく「心で感じる見えない部分」、そこそそが一番大切なところではないかと思うのです。支援センターの事業ではその部分まで踏み込んで関われる時間はないと思いますが、支援センターの役割は本来、その「種」をまくことではないかと思っています。

始まってからほんの一年弱ですが、県内の自治体や自立支援協議会への訪問、地域ごとのミーティングやワークショップ、作品の展示などを精力的に各地で開催してきました。賛同し合える新たなつながりやネットワークができたことは大きな成果です。

支援センターの開設がきっかけとなり、各地でアート支援の動きが出てきていることを感じています。

群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふあん

小柏桂子（NPO法人工房あかね代表）

こ・ふあんとは？

すべての人たちが自由に表現できる社会に向けて、障害のある人の自立と社会参加の促進、個性と能力の掘り起こしなどにつなげようと、群馬県は令和5年4月17日に障害のある人の芸術文化活動支援の拠点となる「**群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふあん**」を設立しました。障害のある人が地域の人びととともに芸術や文化に触れ、活動に携わり、さらにいきいきとした日々を送れるよう、環境や体制を整え、当事者やそのご家族、支援者、障害福祉サービス事業所などの相談に応じ、さまざまな機関や人をつなげていくことを目指します。

センターの活動内容

1. 相談支援 Advice & Support

障害のある人の芸術文化活動に関する相談や支援を行います。表現・創作作品の権利保護など、相談に応じて時には専門家とも連携し、幅広く多面的な支援に努めます。

2. 人材育成 Seminar & Training

さまざまな講習会等を通じて障害のある人の表現活動を支え、生かすための姿勢や知識・技術を学ぶ機会を設け、活動を企画・運営できる人材を育てます。

群馬県障害者芸術文化活動支援センターの愛称を公募し、68点の応募から「**こ・ふあん**」と決定しました。

群馬県障害者芸術文化活動支援センター

こ・ふあん

個：個人 個性 Fun：楽しみ
Co：共同 相互 Fan：支持者 サポーター

*障害のある方やサポーターとともに楽しみながら芸術活動を支援していくことを表現

3. 芸術文化活動に参加する機会の確保



企業や団体などと連携してアート展や発表会等をマネージメント・プロデュースし、作家や作品を発表できる機会を提供します。

Exhibition & Performance

4. 情報収集と発信

Input & Output

県内事業所等の実態把握・調査のほか、作家・作品の発掘に努め、芸術文化活動についてのあらゆる情報を発信する拠点として機能します。

5. ネットワークの構築

Network

障害のある人たちを主人公に、地域や企業、団体などあらゆる人やモノ・コトをつなげるハブ（中核）となって、活動の輪を広げます。また、県内を5エリアに分け、各エリアでネットワークを構築し、地域活動の土台をつくります。

相談支援

Advice & Support

令和5年度相談実績

令和5年4月～令和6年2月 **46件**

[望まれる地域活動の中心拠点]

支援センターが発足して約10か月間の相談内容を分析してみると「どんな相談・支援をしていいのか」といった、センターの根本的な役割や働きについての問い合わせが多かったのが実情です。また、国や自治体などからの相談が多い一方で、作者本人や家族など個人的な相談が少ないことを鑑みて、支援センターについてのさらなる広報活動、発信力の強化は喫緊の課題です。特に各地域での認知度アップと浸透の努力が重要で、自立支援協議会との連携強化、サテライトとなるような各地域の活動拠点、中心的役割を担う団体や人材が今後望まれます。

[相談を事業に反映・支援につなげる]

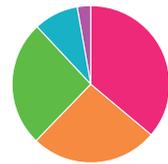
相談内容については、人材育成の一環として行った「知的財産権セミナー」から派生して、作品についての権利関係、売買やそれに伴う契約についての相談が多く寄せられました。

また「作品展示や発表の場がない」「どのような発表をしたらいいのか」という発表の機会に関する相談も目立ちました。

そのような声に応え、次年度は発表の場や機会を増やし、体験型のワークショップ、鑑賞の機会も設けるなど、支援センターで主催する事業が相談内容を解決する内容になるよう工夫します。今後も現場の声を積極的に拾い上げ、生かして事業内容の充実につなげていきます。

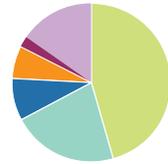
みなさんの相談や声がセンターの充実にもつながり、よりよい支援につながるといふ循環を作りたいと思います。どうぞ積極的にセンターをご活用ください。

相談内容



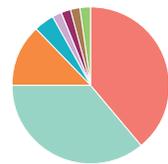
- 相談支援 36%
- 芸術文化活動に参加する機会の確保 26%
- ネットワーク構築 26%
- 情報発信 9%
- 人材育成 3%

相談者の属性



- 福祉事業所 21人
- 国・自治体 10人
- 作者・家族等 3人
- 企業・市民 4人
- 美術館・ギャラリー 1人
- その他 7人

相談分類



- 創作環境に関する相談 39%
- 発表機会に関する相談 36%
- 作品の取扱全般 13%
- 作者の権利保護に関する相談 4%
- 作者・事業所の取材に関する相談 2%
- 作品の二次利用 2%
- 作品売買 2%
- 作品出展 2%

支援センター「こ・ふぁん」では、表現活動を始めたい、作品を発表する場所を見つけたいなど、障害のある人の芸術文化活動におけるさまざまな相談や支援を行っています。相談内容によっては、弁護士や専門機関などへの橋渡しも行います。

相談事例

事例1

イベントとのコラボレーションで作品を展示したい

- 相談者：高崎市 ボランティア団体 mo-mo-sunny
- 相談種別：発表機会に関する相談
- 相談内容

「現在運営しているスポーツジムのスタジオ隣にスペースがあり、マルシェなどを開催する予定。障害者アートの展示やグッズ販売などを通して、多くの人が集まる場所にしたいが協力してもらえないだろうか」という相談がありました。

□対応

支援センターはあらゆるアート文化活動を「支援する」のが役割なので、販売やイベント運営に直接関わることはありませんが、聞いたところ、アート作品の展示や販売は経験が少ないとのこと。そこでまずは芸術作品の扱い方、展示、作品の保護等のアドバイスなどから関わり、協力することになりました。今後少しずつ時間をかけて下地づくりをし、事業として関わっていただけたらと思います。

事例2

もっと多くの人へ音楽を届けたい

- 相談者：吾妻郡東吾妻町 社会福祉法人オリジンの村
- 相談種別：発表機会に関する相談
- 相談内容

「絶対音感を持ち、ピアノや和太鼓など音楽的才能のある人が施設利用者の中にいる。中之条ビエンナーレに参加する機会を得たが、より多くの人に知ってもらい、聞いてもらうにはどのようなかたちで紹介したらよいか」という相談を受けました。

□対応

ともに方向性を探り、当日の会場で本人が演奏するまでには至りませんでした。本人が演奏している映像を展示するかたちで作品を発表することが実現しました。



人材育成

Seminar & Training

■ seminar & training 1

表現を「守って広げる」ために知的財産権について学ぶ

－ 障害のある人のアート活動支援の基礎研修と交流会 －



日 時 2023年6月20日(火) 13:00～17:00
場 所 群馬県青少年会館 2F大会議室
参加者 障害のある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、
芸術文化活動実践者、専門家など50人(当日参加あり)
共 催 一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

1. 講演 「身近な事例から学ぶ、知的財産Q & A」
講師：一般財団法人たんぼの家(奈良県) 大井卓也氏
アドバイザー：弁護士 富岡恵美子氏
2. 交流会 活動紹介と情報・意見交換会



障害のある人の権利を保護し、表現を広げていくため、著作権をはじめとする知的財産権の理解を深めることを目的に実施した研修会。障害のある人のアート作品を販売したり、商品に利用する際に大切な著作権、値段の付け方、販売方法、商品化する上での配慮、収益の分配などを、経験豊富な大井卓也氏から学びました。大井氏は多彩なアートプロジェクトを実施する過程で直面してきた大小さまざまな事例を交えて講話。参加者はメモを取りながら熱心に聞き入りました。

アドバイザーで弁護士の富岡恵美子氏は「法律は難しいが、作者と作品、表現活動を守り、トラブルに巻き込まれないためにはある程度知っておいた方がよい知識。今日の学びを最初の一步にして」と呼びかけました。

後半は質疑応答のほか、県内の事業所等でアート活動に取り組んでいる作家の作品や製品を紹介しながら、情報・意見を交換し合いました。

セミナー受講者の声

作家本人に対するリスペクトの大切さを学びました。

地域の障害のある人に関する芸術文化活動の現状が正しく理解されること、関係者の知識や技術が向上し、地域の団体が組織・事業として芸術文化活動に取り組めるようになること、作品制作や表現の技術向上に繋がる機会が増えること。これらの視点を盛り込みながら、初年度は人材育成研修として講演会を2回、研修会とワークショップを合わせたセミナーを連続3回行いました。障害のある人を中心にした芸術文化活動に取り組むための基礎的な意識の持ち方から支援の現場につながる中級者向けの内容まで、多彩に展開しました。

■ seminar & training 2 アートサポーター養成セミナー3回連続講座 その1

アート×福祉 アートなまなざしで本人の想いをくみ取る ＜想像と創造するチカラを磨こう＞アートワークショップとグループワーク



日 時 2023年7月25日(火) 13:00～17:00
場 所 群馬県青少年会館 1Fプレイホール
参加者 障害のある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、
管理者など47人
共 催 一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

1. アートワークショップ 「書道じゃない! 墨あそび」
講師：NPO 法人ながのアートミーティング(長野県) 代表・関孝之氏、佐々木良太氏
2. 講演 障害のある人の表現の魅力とその向こうにあるモノガタリ
講師：NPO 法人ながのアートミーティング(長野県) 代表・関孝之氏
3. グループワーク 「私たち困ってます!!」
4. 振り返りのおしゃべり会



福祉現場で支援に困難を感じている支援者のスキルアップ、当事者の生活環境向上を目指した3回連続講座。学んだことを福祉現場に持ち帰り、実践できるプログラムを組みました。

第1回目の「墨あそび」アートワークショップでは、参加者全員がそれぞれ足を使ったり、腕や身体にガムテープを巻き付けたりして動きを制限した上で一字を綴る体験をしながら、コミュニケーションの取り方やサポートの実際を学びました。

第2部の講演では、施設内でよくあるさまざまな行動について触れ「不安な思いや表に出せない内面を、彼らは何かで表現している。生い立ちや家族との関係性など本人の背景にある『物語』や、行動に凝縮されている切実な思いを汲み取る想像力、気持ちに寄り添う心が支援する側に求められる。『問題行動』として本人を責めるのではなく、行動の根本にあるものを想像し、支援する側の『課題』と捉えて」と講師の関さんが呼びかけました。

第3部では、本人の本当の気持ちをくみ取ってよりよい支援につなげていけるよう、1人ひとりの「想像」を寄せ集めて書き出し、チームとして課題を共有するグループワークを行いました。

セミナー受講者の声

アートの前に、まずその人の思いをくみとる練習が必要だなと思いました。



■ seminar & training 3 アートサポーター養成セミナー3回連続講座 その2

アート×福祉 アートなまなざしで本人の想いをくみ取る
 <想像と創造するチカラを磨こう>アートワークショップとグループワーク



日 時 2023年9月27日(水) 13:00～17:00
 場 所 群馬県青少年会館 1Fプレイホール
 参加者 障害のある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、
 管理者など46人
 共 催 一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

1. アートワークショップ 「ぐりぐりめりめり」なんて気持ちいいんだ！
 講師：NPO 法人ながのアートミーティング（長野県）代表・関孝之氏
 実践者とトーク「福祉現場で表現を取り入れる意味」
 講師 NPO 法人ながのアートミーティング（長野県）代表・関孝之氏
 元群馬県立盲学校長 多胡宏
2. 講演
3. グループワーク「主語をわたしで語るMOーSO会議のすすめ」
4. 振り返りのおしゃべり会



3回連続講座の第2回目。アートワークショップでは、段ボールをキャンパスにクレヨンで色を自由に塗り重ねていき、それぞれ好みの形に切り取って壁に貼り、みんなで一枚の大きな作品を作り上げました。参加者は「今までにない手法で楽しかった」と感想を述べていました。

第2部の「実践者とトーク」では、実践の場での経験を交えながら福祉現場で表現を取り入れる意味について語りました。講師の関氏は「表現活動は、本人の不安や言語化できない思いを外在化する過程。表現を通して本人の可能性や内なる思いに気づき、支援者としての反省や見直し、本人主体の支援へとつなげて」と話し、多胡氏は「目の見えない人には見えない人の世界があり、見えているものだけで表現している私たちには気づけないものを気づかせてくれる。私たちがそちらへ近づいていけたら」と述べました。

第3部のグループワークでは、いわゆる「困った行動」を「何かを表現している姿」と捉え、背景にある物語や家族との関係、環境などを妄想し、その思いを本人の視点に置き換えて明文化。内なる思いに近づいて、本人主体の支援に結び付けていく一連の過程を体験しました。

セミナー受講者の声

大きな声や強い言葉を優先しがちだが、声なき声にも声があることに気付きました。

■ seminar & training 4 アートサポーター養成セミナー3回連続講座 その3

アート×福祉 アートなまなざしで本人の想いをくみ取る
 <想像と創造するチカラを磨こう>アートワークショップとグループワーク



日 時 2023年11月21日(火) 13:00～17:00
 場 所 群馬県青少年会館 1Fプレイホール
 参加者 障害のある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、
 管理者など24人
 共 催 一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

1. アートワークショップ 「音あそびと身体表現」
 シニアパフォーミングアーツグループTACT（高崎市）の皆さん
 NPO法人ながのアートミーティング（長野県）代表・関孝之氏、佐々木良太氏
2. 講演 「なんで？ NANDE？な表現」
 講師 NPO法人ながのアートミーティング（長野県）代表・関孝之氏
3. グループワーク「アートしてみました」
 進行：NPO法人ながのアートミーティング（長野県）代表・関孝之氏、佐々木良太氏
4. ドラムサークルワークショップ 講師：スマイルビート（伊勢崎市）代表・清水和美氏



3回連続講座の第3回目。第1部のアートワークショップでは、太鼓やピアノなどの軽快なリズムに乗って、身近なものをテーマに楽しく自由に体を動かしながら、個の表現が人とつながり、さらに広がり生まれる身体表現を体験しました。

第2部の講演で講師の関氏は「サポートする側から見ると『なんで？』と思う困った行動には、本人が長年抱えてきた問題や思いが潜んでいる。表現活動を通して顕在化する心の叫びや背景に思いを巡らせ、支援の課題に結び付けて」と呼びかけました。

第3部のグループワークでは、県内の施設や事業所が実際に取り組んでいる、または取り組み始めたアート活動を報告しました。また、作品を持ち寄って展示し、各活動の感想や課題などの情報交換を行いました。

最後に「ドラムサークルワークショップ」も行い、盛りだくさんの内容で全3回のセミナーが終了しました。参加したアートサポーターはワークショップや講演、グループワークを振り返り、「今後の活動に生かせる多くのヒントを得られた」と感想を述べていました。

セミナー受講者の声

目に見えるもの以上に見えない箇所に思いを巡らせて、相手の理解につなげたい。



■ seminar & training 5 GOOD JOBのつくり方



日時 2024年1月23日(火) 13:00～17:00
 場所 群馬県青少年会館 2F大会講室
 参加者 障害のある人のアート活動をサポートしたい人、活動している人、管理者など26人
 共催 一般社団法人群馬県社会就労センター協議会

1. 講演 「GOOD JOBのつくりかた」
 講師：Good Job！センター香芝（奈良県）企画営業ディレクター 安部剛氏
2. 事例発表・交流会



全国の福祉施設などの商品を販売する店舗の運営、施設利用者の表現を生かした多彩な商品開発に取り組む安部剛氏を迎え、障害のある人の仕事づくりの可能性について学びました。

安部氏は施設利用者の作品やアイデアを商品化するまでの開発過程や販売経路の模索、伝統工芸や地域の企業、デザイナーらと関わり合いながら人気商品へと定着させるまでの道のりなど、数多くの実績を紹介しながら販売拡大ほか利用者のやりがい、収入につなげる工夫まで幅広く講話。「メンバー1人ひとりのアイデアをそのまま活用できるのは理想だが、『全員の仕事』として『売れる』ことを考えるのも大事。7年間さまざまな張り子づくりをしてきた結果、『こういうものだったらお客さんも喜んでくれるのでは』という感触をメンバーも感じ取るようになり、新たな商品開発につながっている」と話しました。

後半はアート作品開発と販売に取り組んでいる県内3事業所の事例や製品を紹介し、問題点や今後の課題などを発表しました。

セミナー受講者の声

スタッフと本人とのズレが少なくなっていく道が見つかったような気がする。

知ればちょっとココロが近くなる FUNがいっぱい！FANを増やそう！

●「こ・ふあん」が応援 アートのわくわく

こ・ふあんは、県内で行われるさまざまなアート文化活動の後援も行っていきます。今年度の主な後援事業、またPR活動の一環として参加したイベントを紹介します。

■イオン常設寄付ステーション「Heartfulの輪」・「高崎グルメリー」

日時 寄付ステーション 2月12日(月)～令和7年2月28日(金)
 高崎グルメリー 2月12日(月)～3月31日(日)
 場所 イオン高崎
 主催 イオンモール高崎



イオンモール高崎で始まったフードロスへの取り組みキャンペーンの一環として、同店フードコートのテーブルラッピングとグルメリーのデザインにNPO法人工房あかねのアーティストたちの作品が採用されました。2月12日にはリサイクル寄付ステーションの落成式が催され、作者も参加、作品についての発表もありました。

■れいんぼ～アート

日時 8月6日(日)
 場所 ブラジリアンプラザ(大泉町)
 主催 一般社団法人日本海外協会
 共催 NPO法人あめんぼ



邑楽郡大泉町のブラジリアンプラザに、在日ブラジル人アーティストや小中高生ほか約100人が集合。NPO法人あめんぼのアーティストたちも参加、壁面を自由にペイントする「れいんぼ～アート」を楽しみ、色彩豊かな作品が完成しました。

■一緒にいることが当たり前だ!!!! 展

日時 5月24日(水)～28日(日)
 場所 イオンモール高崎2F イオンホール
 主催 NPO法人麦わら屋

日頃からアート活動に力を入れている麦わら屋。アーティストたちによる作品展示ほか、その場で体験するメディアアートも好評でした。

■新春コンサート・みんなのアート展

日時 新春コンサート1月14日(日)
 みんなのアート展1月23日(火)～2月4日(日)
 場所 吉岡町文化センター
 主催 吉岡町社会福祉協議会

吉岡町社会福祉協議会より連携の相談を受け、こ・ふあんのPR活動などを行いました。

■第33回群馬ナイスハートフェア

日時 9月12日(火)～9月14日(木)
 場所 県庁1階県民ホール(北側)
 主催 公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会

県内の障害者福祉施設から出品された作品・商品の紹介。こ・ふあんはPR活動展示を行いました。

■むすび

日時 3月20日(水)～3月31日(日)
 場所 栃木県足利市 artspace & cafe
 主催 社会福祉法人善隣学園ルンビニー園

ルンビニー園とアートサポートネットワークぐんまは以前から県境を越えたお付き合い。栃木・群馬のアーティスト作品を展示、座談会を開きました。

■三波川体験交流館開館記念「つむぐアート展2023」

日時 9月16日(土)～9月24日(日)
 場所 旧三波川中学校跡地 NPO法人あそびの学校
 主催 NPO法人あそびの学校

「あそび、アート、自然」をテーマに体験を通して交流を深める活動の一環。伝統工芸ワークショップや泥だんごづくり、アートワークなどを行いました。



芸術文化活動に参加する 機会の確保

Exhibition & Performance

■ exhibition & performance 1

絵画展示



大きな空間に対応する大作・5作品が展示されました。

会 期 2023年6月19日(月)～2024年3月31日(日)
会 場 群馬県庁32階(前橋市)

出品作品

- リュウ2(小柏龍太郎×前島芳隆)「春の嵐」
F100号 キャンバス/アクリル絵の具
- 鈴木雅史「闘う鳥」
(45×54cm) 画用紙/色鉛筆
- yume06「GUNMA」
A1(84×60cm) デジタルイラスト
- はんだこうすけ「うみだ」
(76.5×108.5cm) 画用紙/マジックペン
- 森藤政明「星に平和を願うネコ」
F30号 キャンバス/ボールペン



福祉の現場から日々生まれる作品たち。時にはハッとさせられ、時には心に響く、色彩豊かでのびやかで自由なこの世界を、もっと多くの人に知ってもらえたら。そんな思いからいまでも多くの展示を手掛けてきましたが、支援センター開設を記念して、県庁32階に作品を展示することになりました。今回はNPO法人工房あかねの通所施設「アトリエ ART・ON」に通うアーティストたちの5作品。多彩な色づかいが特徴的な大型の作品や、パソコンやタブレット端末を使ったデジタル絵画などが、訪れた人々の目を引きました。

医療的ケア児等支援センターで子どもと家族を あたたかく迎えます

茨川市の県立小児医療センター敷地内にある「医療的ケア児等支援センター」。ここには人工呼吸器を装着するなど、日常的に医療的なケアが必要な子どもと家族が集います。作品を通して気持ちが明るくなれるようにと、各室に「NPO法人あめんぼ」に通うアーティストの作品が展示されました。



障害のある人が作品を創造し、発表する機会が増えること、障害のある人の芸術文化活動に対する社会的認知が高まること、地域住民が芸術文化活動を通して障害のある人と交流できるような場をつくることを目指して、企業や団体などと連携してアート展や発表会等をマネジメント・プロデュースし、作家や作品を発表できる機会を提供します。今年度はさまざまな人が行き交う公共施設・団体での作品展示や、一般の人も気軽に参加できるワークショップを行いました。コーヒESHOPとの協働によって実現した Arts & Cafe は、たくさんの方々で賑わい、好評を得ました。

■ exhibition & performance 2

J R 桐生駅でペイントワークショップ with ドラムサークル



[ペイントワークショップ]
日 時 2023年8月26日(土)、27日(日)
会 場 J R 桐生駅北口(桐生市)
参加人数 8月26日:約100名 8月27日:約50名

[ドラムサークル]
日 時 2023年8月26日(土)
会 場 J R 桐生駅南口(桐生市)
参加人数 約90名
共 催 JR 東日本 高崎支社 JR 桐生駅
企画運営 NPO 法人あめんぼ NPO 法人工房あかね
協 力 わたらせ森林組合 亀井建築 社会福祉法人チハヤ会



駅の南口で開催されたドラムサークルワークショップ。思い思いにドラムを叩いてリズムと共鳴を楽しみます。音につられて寄って来た男子も女子も親子連れも、みんなノリノリ。



当日立ち寄った子どもたちも真剣に色を塗りぬり。目を輝かせてハケやローラーを動かします。

地域の人たちや団体と連携を図ることによって駅のぎわいをつくることのできるんだなあと感じています。

JR
桐生
駅
長



障害の有無にかかわらず、みんなで一つのアートを作りあげる体験を通して、ともに生きる社会のあり方を考える機会をと、自由参加型のワークショップをJ R 桐生駅で開催しました。

駅前に登場したのは、巨大な木製のキャンバス。地元のわたらせ森林組合が制作した特製です。駅を利用する人、通りがかった人たちも飛び入り参加。ハケやローラーなどに絵の具を付けて、それぞれ自由にのびのびと描いていきました。

会場ではさらにNPO法人あめんぼとNPO法人工房あかねに所属するアーティストがこの日のために制作した絵画作品の除幕式が行われ、9月末日まで駅を利用する人たちの目を和ませました。

駅構内にはアーティストたちのグッズが並ぶアートショップも出店。26日にはスマイルビート(伊勢崎市)代表・清水和美氏によるドラムサークルワークショップも開催しました。





■ exhibition & performance 3 アーツアンドカフェ /Arts & Cafe

明るく開放的なカフェには、コーヒースリーブやカードに採用した原画などアーティストたちの絵画が展示されました。さわやかなコーヒーの香りとアートを楽しみつつ、落ち着いた空間でほっとひととき。やっぱりアートとカフェは相性がいいですね



会 期 2023年8月26日(土)～9月10日(日)
会 場 群馬県庁32階 YAMATOYA COFFEE32 (前橋市)
共 催 NPO 法人工房あかね
協 力 株式会社大和屋



9人の作品がデザインされたカップカバー「コーヒースリーブ」。好みのデザインを選べます。お揃いのコーヒーカードも人気を集めました。会期中「こ・ふあんブレンド」は158杯を販売。コーヒーの売上の一部は、アーティストへ還元されました。

想像の域を超えた大胆な色づかいやタッチが魅力です。作品の感性を大事にしながら、個性あふれるブレンドを編み出しました

大和屋 平湯 聡社長



スリーブのデザイン

この日のために特別にブレンドされた「こ・ふあんブレンド」コーヒー。



もっと気楽に、気軽にアートに楽しんでもらえる場ができないだろうか？そんな時、誰かがグッドアイデアを思いつきました。「アートとカフェは相性がよい！」

すると快く相談ののってくれたのがコーヒー製造販売の株式会社大和屋（高崎市）です。NPO法人工房あかね（高崎市）は同社と二十年来のお付き合い。高崎市筑縄町にある本店で作品の展示販売会を続けてきました。そのご縁が新たなコラボレーションにつながり、県庁32階の同社のカフェ「YAMATOYA COFFEE 32」で、期間限定「アーツ&カフェ」が始まりました。

明るいフロアには、県内3つの団体・アシスト前橋、チャイルドホープ上小島、NPO法人工房あかねの、さまざまな色が重なりあう絵画や立体作品を展示。そして大和屋特製オリジナル「こ・ふあんブレンド」コーヒーのカップには、9人のアーティストたちの作品をデザインしたカバー「コーヒースリーブ」を取り付けました。さらにオリジナルのコーヒーカードも制作。

多くの人たちとのつながりによって、「福祉」の枠を取り払い、さらなる広がりを生み出していくことを感じたイベントでした。今後は「アーツ&カフェ」をさらに広げると同時に「アーツ&〇〇」の楽しい企画を考えていきます。

■ exhibition & performance 4 ルオムの森のペイントワークショップ



[ペイントワークショップ]
日 時 2023年10月21日(土)、22日(日)
会 場 ルオムの森(吾妻郡長野原町)
参加人数 10月21日:約80名 10月22日:約70名
[ドラムサークル]
日 時 2023年10月22日(日)
会 場 ルオムの森(吾妻郡長野原町)
参加人数 約50名
共 催 有限会社きたもっく ルオムの森
企画運営 NPO 法人あめんぼ NPO 法人工房あかね
協 力 スマイルビート

各地域のアート活動の輪も広がっていきとうという取り組みも始まっています。吾妻地域での障害者アート活動に関係する団体・機関・個人をつなぐ機会づくり、アート支援に携わる人材育成などを視野に入れ、長野原町北軽井沢の「ルオムの森」でペイントワークショップを開催しました。

キャンバスは、地元北軽井沢産のカラマツを利用した板、そして近隣の牧場から提供された牧草ロール。森の中に横たわる巨大なキャンバスに子どもも大人も大喜び。ローラーやハケを手に、身体を大きく動かして、時間を忘れて思い切りペインティングを楽しみました。

また、2日目の22日は、ドラムサークルワークショップも開催。みんなで輪になって世界の打楽器を打ち鳴らし、他の人との共鳴や一体感を楽しみました。



晩秋のひんやりした空気の中、紅葉の森に包まれながら、みんなで思い思いにペインティング。最初はおっかなびっくりだった子どもたちも、次第に大胆に、元気に。どんだん筆づかいが自由になっていきました。



音を出せば、みんなともだち。瞬時に心がひとつに。タイミングを合わせた、ずらしたり。ニコニコ顔で叩きまくりましたね。

■ exhibition & performance 5 東毛地区ノンアート展 ドラムサークルで遊ぼう



東毛地区7団体からの応募があり、45作品が展示されました。

[東毛地区ノンアート展]
会 期 2023年12月1日(金)～10日(日)
参加人数 来館者多数
[ドラムサークル]
日 時 2023年12月2日(土)
参加人数 258名
主 催 ぐんまこどもの国児童会館(公益財団法人 群馬県児童健全育成事業団)
共 催 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん
企画運営 NPO 法人あめんぼ
協 力 スマイルビート

12月3～9日は「障害者週間」。絵画を通してより多くの人に知る機会、接点を持ってもらいたいと、たくさんの親子連れでにぎわうぐんまこどもの国の敷地内にあるぐんまこどもの国児童会館で作品を展示しました。参加したのは、東毛地区の障害者支援事業所や個人。初めて展示に応募した事業所もあり、出会いの場、発表の場として大きな機会につながりました。

会期中の12月2日には、ドラムサークルのワークショップも開催。訪れた親子連れが楽しそうに打楽器を叩き、リズムののって楽しみました。



障害に配慮した芸術文化活動に関連・関心ある人や組織に適切かつタイムリーな情報が行き届くこと、障害のある人の芸術文化活動について地域の人びとの関心が高まることを目指して、県内事業所等の実態把握・調査のほか、作家・作品の発掘に努め、芸術文化活動についてのあらゆる情報を発信する拠点として機能していきます。

情報収集と発信 Input & Output

各地域や他団体との連携と情報収集

初年度は県内各地の障害者自立支援協議会、自治体などを訪問し、協議会定例会等へ出席、支援センター活動内容の案内・広報活動を行い、情報収集・発信のための地盤づくりを進めてきた一年でした。今後、他団体との連携事業にも積極的に取り組んでいきます。



障害者芸術活動に関する調査・発掘

県内各地の障害者芸術活動団体の調査や、個人作家・作品の発掘に取り組みます。調査内容をデータベース化し、今後の支援活動の礎にしていきます。

初年度は手厚い取り組みには至りませんでしたが、渋川市の社会福祉法人「恵の園」ベテルを訪問し、活動内容などの聞き取りと活動現場の視察を行いました。同施設では秀でた作品を製品化するにあたって、布に印刷できる特殊なプリンターを導入し、Tシャツの制作ほかイベント活動にも応用していることを知りました。そこでこの取り組みを多くの人にも知ってもらおうと、支援センター主催の人材育成セミナーにて事例紹介が実現しました。



ホームページの開設と各イベントの広報活動



支援センター HP

支援センター発足と同時にパンフレットを発行。主催事業のチラシも随時作成し、県内関連機関・団体等への配布を通して広報活動を行いました。また、ホームページを開設し、イベントのお知らせやセミナーの内容発信なども行いました。今後は分かりやすく中身の濃い情報発信源として機能するよう、コンテンツの充実や認知度向上への工夫が課題です。



次の一步にトライ！みんなFUN!FAN!

●「こ・ふあん」の発信から広がる学びの輪

「Center of Person」をモットーに、戦後まもなくから地域に根付いてきたみどり市の「社会福祉法人チハヤ会」。積極的にアートにも力を入れ、令和2年からはアート作品展「OMUSUBI展」を開催しています。

地元の森林組合と提携したり、デザインユニットとのコラボによって新商品を開発したりと活発に活動しており、今年度の支援センター主催・人材育成セミナー「知的財産権について」を受講し、内容を支援者全体で共有したそうです。「これまで著作権や許諾、契約書等に詳しく取り組んでこなかったのが大変勉強になり、体制整備へのきっかけとなりました」と支援員さん。

これからも「こ・ふあん」は支援現場を支える情報や知識を伝えていきます。



支援員さんの声

「GOOD JOBのつくりか」セミナーで新たな製品づくりのアイデアやヒントを頂きました！

「アートサポーター研修」に参加し、ワークショップや研修で体験・学んだ事を事業所で実践でき、作品にもなり、みなさんにも喜ばれました。



ネットワークの構築 Network

地域色を生かした運営を目指して

県内を中毛、西毛、吾妻、利根沼田、東毛の5つのエリアに分け、各エリアの特色を踏まえた芸術文化活動を行えるようサテライト拠点を設置、より細かいネットワークを構築し、地域活動の土台をつくります。

[5つのエリア]

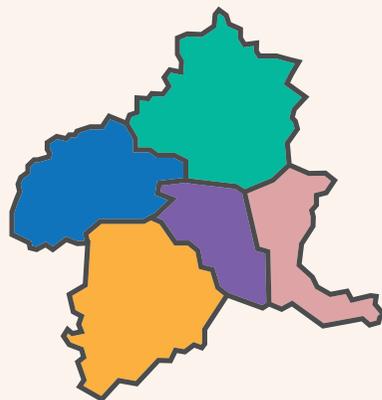
中毛エリア

西毛エリア

吾妻エリア

利根沼田エリア

東毛エリア



全体でつながる・地域でつながる

芸術文化活動をあらゆる面からサポートしていくには、多種多様なつながりが非常に大切です。全体としてのつながり、活動地盤となる地域でのより近いつながり。これからも密接に連絡を取り合い、情報を発信・共有していくためにさまざまな情報交換の場と機会をつくります。初年度は全体の運営委員会ほか県央地域、吾妻地域でのミーティングを開催。多くの人に作品に触れてもらうためのアイデアや作品展示の際の問題点、作品販売の事例などが話題に上りました。今後は各エリアでの会合を活発に行い、地域ごとの連携強化を図っていきます。

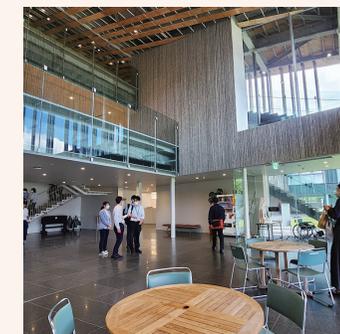


障害のある人の芸術文化活動を支援する多様なネットワークづくりに努めます。福祉団体を中心に文化芸術機関、医療、教育機関、美術関係者、社会的企業、NPO団体、司法関係、地域、自治体、民間企業、アーティストやクリエイターらと協働し、「こ・ふぁん」はあらゆる人やモノ・コトをつなげるハブ（中核）となって、活動の輪を広げていきます。

今後の連携に向けての模索

より多くの人に芸術文化活動に触れて知っていただくため、そして支援のかたちをより多様化するためにも、さらに多くの企業や団体等と連携し、協働の機会と場を増やしていく必要性を強く感じています。

今年度は、世界遺産「富岡製糸場」や総合情報発信&研究施設「群馬県立世界遺産センター・セカイト」、富岡市役所等を視察しました。施設の空間に実際に立ち、現地の方々のお話を聞きながら、さまざまな可能性を探りました。



他県ともつながり、学び、生かす

活動の輪は県内だけに留まることなく、積極的に心を同じくする県外の団体や人々とつながっていきます。また、先達の活動や支援体制を学び、今後の群馬県での支援に生かし、役立てていこうと、今年度は南東北・北関東ブロック広域センター事業「他県への出稽古」として山形県酒田市で開催された障害者アート展「いいいろいろ展」へ研修・視察してきました。

この展示会の特徴は、酒田市文化政策課が主催し、障害福祉課、社会福祉協議会が連なり、酒田市立美術館と山形県障害者芸術文化活動支援センターがキュレーターとして作品選定・展示を支援、地元アートディレクターが映像制作等をサポート、各事業所作家も積極的に関わるとい、「ALL酒田体制」で実施しているという点です。さまざまな立場の人が積極的に熱い心で関わっている姿に感銘を受け、このスタイルが将来的に群馬にも取り入れられたらと夢が広がりました。



■令和5年度の活動状況

令和5年	4月13日	知事記者会見 支援センター設置発表
	17日	支援センター開所
	5月18日	富岡自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR
	23日	ぐんまアートネットワーク懇談会 群馬県青少年会館
	6月19日	県庁32階 作品展示
	20日	知的財産研修開催 群馬県青少年会館
	21日	前橋市相談支援連絡協議会 定例会参加 支援センター PR
	27日	医療的ケア児等支援センター 作品展示 県立小児医療センター敷地内
	7月7日	伊勢崎市手をつなぐ育成会 総会参加 支援センター PR
	13日	みどり市地域自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR
	18日	吾妻自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR 嬭恋村
	20日	利根沼田自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR 沼田振興局
	25日	第1回アートサポーター育成セミナー 群馬県青少年会館
	8月4日	群馬県障害者芸術文化活動支援センター愛称「こ・ふぁん」決定
	6日	レインボーアート事業参加 大泉町観光協会ビル日本海外協会主催
	8日	桐生市自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR
	19日	支援センター設立記念シンポジウム スマーク伊勢崎
	26-27日	「駅でペイントワークショップ」開催 JR 桐生駅
	26日-9月10日	「アーツアンドカフェ /Arts &Cafe」開催 県庁32階 大和屋
	9月12-14日	ナイスハートフェア作品展示 群馬県知的障害者福祉協会 県庁
	19日	高崎市相談支援連絡協議会 定例会参加 支援センター PR
	27日	第2回アートサポーター育成セミナー 群馬県青少年会館
	28日	沼田市相談支援センター 利根沼田地区事業協議
	10月12日	安中市自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR
	13日	太田市障害者支援協議会 定例会参加 支援センター PR
	21-22日	「森のペイントワークショップ」開催 北軽井沢ルオムの森 吾妻地区アートネットワーク懇親会開催
	11月21日	第3回アートサポーター養成セミナー 群馬県青少年会館
	30日	榛東村福祉係訪問 支援センター事業 PR
	12月1-10日	東毛地区ノンアート展 ぐんまこどもの国児童会館
	2日	東毛地区ノンアート展 ドラムサークル開催
14日	県央地区アートネットワーク懇談会 道の駅まえばし赤城会議室	
20日	館林地区自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR	
21日	渋川市自立支援協議会 定例会参加 支援センター PR	
令和6年	1月23日	第5回人材研修「GOOD JOB のつくり方」セミナー開催

□開設記念シンポジウム

「こ・ふぁん」の開設を記念して、令和5年8月19日、伊勢崎市の商業施設「スマーク伊勢崎」でシンポジウムを開催しました。アートと福祉の現場で先駆的な実践を続けるNPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事の柴崎由美子氏や、企業や行政、学校、障害者支援事業所との協働によりデザインを展開する（一社）シブヤフォント共同代表の磯村歩氏らを迎え、「障害者芸術文化の可能性」をテーマにパネルディスカッションを行いました。会場ではそのほか、ダウン症の天才書家・金澤翔子氏の“席上揮毫（きごう）”と金澤泰子氏の“トークショー”、渡良瀬特別支援学校&つゆ草和太鼓愛好会による和太鼓演奏なども行われました。

歩みはじめました

令和5年4月17日、群馬県障害者芸術文化活動支援センター「こ・ふぁん」は産声を上げました。多くの方々のご助力のおかげで初年度の事業を進めてこられましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

一方、この報告書をまとめている現在、実質10カ月に満たない活動を振り返ってみますと、おもにセンターの運営基盤構築や広報活動など環境の整備に重きを置いた一年であり、本格的な支援活動としてはまだまだこれから、課題は山積みです。

ただ、私たちには強みがあります。それはこれまで築いてきた「地域ネットワーク」です。「こ・ふぁん」は「NPO法人工房あかね」を業務受託法人とし、「NPO法人あめんぼ」「一般社団法人あったらいいなをカタチに」の2団体を運営協力組織として、合計3団体が協力し合って事業を進めるという、全国でもまれなかたちでの運営体制を敷いています。これは支援センターを立ち上げる前から、人と人とのつながりを大切に、芸術文化活動を長い時間をかけて地道に支えてきたという、これまでの歴史と背景を物語るものでもあります。このつながりは平成30年に「ぐんまアートサポートネットワーク」として実を結び、活動の幅を柔軟に広げ、ゆるやかにつながる土壌を育てました。そしてその素地が「こ・ふぁん」に受け継がれたわけです。センター発足の折、「支援に必要不可欠なネットワークがすでに形づくられているのは、他に例を見ない特性である」と、他県の支援関係者からも高い評価をいただきました。

赤子のようによちよちと歩み始めたばかりの「こ・ふぁん」ですが、この特色を今後の活動に生かし、当事者はもちろんのこと、家族や見守り支える人々一人ひとりのいきいきとした暮らしに結び付けていけたらと考えています。ただ、赤子が周囲の人たちの見守りと関わりによって育つように、生まれたばかりの「こ・ふぁん」もまた地域の芸術文化活動を支える盤石な母体として成長していくにはみなさんのお力添えが不可欠です。今後もご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん



令和5年度 群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふぁん 事業報告書

発行日 2024年3月31日

企画・発行 群馬県
障害者芸術文化活動
支援センター
こ・ふぁん



〒370-0813

群馬県高崎市本町10-1 イチカワビル 4F[工房あかね内]

TEL/FAX 027-387-0533

受付時間：午前10時から午後5時まで（土日祝日、年末年始は除く）

URL www.gunma-artsupport.com

E-MAIL info@gunma-artsupport.com



事務局 群馬県健康福祉部障害政策課/NPO法人工房あかね
協力 吉田征雄（NPO法人あめんぼ） 鈴木隆子（一般社団法人あったらいいなをカタチに） 多胡宏

デザイン・制作 寺澤事務所・工房

編集・執筆 加藤智美

写真 江原信明ほか

